



伯耆町教育長に 現職箕浦氏が再任



伯耆町教育長に再任された箕浦昭彦氏への辞令交付式が2月18日(金)、町長室で行われました。箕浦氏は通算2期目で、任期は令和4年2月18日から3年間です。

2期目を迎え、箕浦教育長は「令和3年度からスタートした第2次伯耆町教育振興基本計画の理念である『健やかで心豊かな人を育むまち』を目指した取り組みを進めます。主な取り組みとしては、社会の一員として自立して活躍できるよう、子どもたちをまちぐるみで育成する学校教育や、町民の皆さんが学び続け、輝き続けることができる基盤づくりなど、コロナ禍ではありますが、町民の皆様のお力をお借りし、工夫しながら様々な取り組みを進めて参ります。」と述べました。

人権尊重のまちづくりを目指して

「第3次人権施策推進計画を町に答申」

「伯耆町部落差別をはじめあらゆる差別をなくする人権尊重に関する審議会」の石脇昭弘会長から2月24日(木)、「第3次人権施策推進計画」の答申書が提出されました。

この計画には、障がいのある人、子ども・高齢者・外国人・病気にかかわる人など、すべての人の人権を尊重するまちづくりの推進に向けた、教育・啓発の推進や相談体制の充実などの具体的な取組がまとめられています。計画期間は、令和4～8年度の5年間です。

このたびの改訂にあたっては、審議会が2年間審議を重ねたほか、町民の意識調査も行われ、「住民参画と協働による人権尊重のまちづくり」の視点を大切にしています。

答申にあたり、石脇会長は「意識調査を見ると、人権問題に関する学習機会の不足が見受けられました。町民が様々な機会に学習し、人権問題が自分自身の問題であることを認識できるよう、教育、啓発、実践に努めてほしい」と意見を述べられました。

この計画は、町のホームページでご覧いただけます。



箕浦昭彦教育長へ答申書を提出する石脇昭弘会長(写真右)

地域貢献とスポーツでつながる絆

「こしがが丘自治会・桐谷龍平さんが「日本海新聞ふるさと大賞2021」受賞」

地域の活性化とスポーツの発展に貢献した個人・団体に贈られる「日本海新聞ふるさと大賞2021」表彰式が3月9日(水)、伯耆町役場で行われ、地域貢献賞にこしがが丘自治会が、スポーツ功労賞に桐谷龍平さん(大段)が選ばれました。

地域貢献賞を受賞したこしがが丘自治会は、平成25年に町が設置した生ごみ処理施設を活用し、自治会内の家庭から排出される生ごみを収集・処理し、自治会内の花壇などに液肥として利用するなど、ごみ減量化とリサイクルに取り組んでいます。

スポーツ功労賞を受賞した桐谷龍平さんは、鳥取県を代表するアマチュアゴルファーで、中国ジュニアゴルフ選手権連覇、日本アマチュアゴルフ選手権ベスト16、2011年山口国体優勝など、ジュニアの頃から数々の輝かしい成績を収めています。

受賞にあたり、こしがが丘自治会長・川田保さんは「この受賞を励みに今後活動も続けたいです」と、桐谷龍平さんは「生まれ育った地域で表彰してもらえてありがたい。今後の励みにしたいと思います」と話しました。



日本海新聞ふるさと大賞2021を受賞したこしがが丘自治会(下段左・中央)と桐谷龍平さん(下段右)